

異常をきたすかいなかを調査し、同時に、圃場の根瘤線虫と発芽との関係を明らかにしようとした。

根瘤線虫に対する耐虫性の強弱2品種について、貯蔵中の種薯の萌芽状況、植木鉢および圃場の直播栽培における発芽調査の結果によれば、耐虫性の強弱にかかわらず、線虫寄生度または加害度の高い種薯では、発芽がおそく、莖数が少なくなることが認められた。一方種薯を播種した圃場の土壌中の根瘤線虫もまた発芽に影響を及ぼすものようである。

#### 71. 長崎県に発生した馬鈴薯寄生線虫について

(名大農) \*弥富喜三・西沢 務

1955年9月に宮崎県において、長崎県から移入した種馬鈴薯に乾腐病に類似する病斑が認められ、やがてその被害は病斑部からきわめて多数に検出される1種の線虫の寄生によるものであることが明らかにされた。この線虫は通称 meadow nematode または root-lesion nematode と呼ばれる1群の内部寄生性線虫 *Pratylenchus* 属の1種であるが、SHER & ALLEN (1953) の検索表に準じて同定を試みたところ、異種の *Pratylenchus* 属10種のいずれとも異なり、未記録の新種であることが判明した。なおわが国における *Pratylenchus* 属発生の最初の記録は高坂 (1946) による宮崎県の甘藷根腐線虫 (*P. pratensis*) であるが、その線虫も *P. pratensis* とは異なるようである。

#### 72. ドブネズミの冬季野外棲息の1例

(長野巖ヶ崎高校) 唐沢 徳武

本冬長野県の農村で稲藁の中に越冬中のドブネズミの観察を行ったので、冬期寒冷地における野外棲息の1例としてここに報告する。稲藁を積んだ下に4個の巣を発見したが、同一個体の作った巣で、寒さが加わるにしたがつて藁の下を中心部に向かつて移行したものである。巣の中には子ネズミの糞が見られ、冬季中繁殖した事実を物語っていた。この巣の一部にはハタネズミの死体があり、ドブネズミの雄が毒死していた。これらのことは今後の駆除のための好資料となる。

#### 73. 北海道の離島のネズミ類

(北大農) 太田嘉四夫

北海道の離島、南の奥尻島、北の利尻島、礼文島、西の天売島、焼尻島、東の大黒島(厚岸湾)のネズミ相を調べた。家鼠類は別として、野鼠類は本島と比較して甚だ種類数が少ない。森林を有する奥尻島および

利尻島では *Apodemus ainu ainu* を産するが、森林をもたぬ諸島からは *Clethrionomys rufocanus bedfordiae* のほか発見されていない。これらのネズミの分布の生物地理学的意義について論じ、あわせて大黒島、奥尻島および天売島に1954年発生した鼠類について述べる。

#### 74. 本邦における毒蛇問題と野生研究

##### 第1報 鳥類利用

(林野庁野生研) 岸田久吉

台湾が、わが版図から出てから、日本の毒蛇問題は、急にひつそりして来た。しかし、今も、琉球列島においては、復興・開発に先立つて、大いに考えるべき問題である。該地方における毒蛇問題は、ハブ属 *Trimeresurus* LACEPEDE, 1804. を中心とするものであるが、その被害をまぬかれるために、いかなる方策を講ずべきか? 第一は、ハブ属について、分類・分布・生系・食性・活動の律制・寄生生物などの天敵、毒剤に対する反応……などの徹底した研究を行う。第二は、住民の生活態様との関係を調査し、物心両面を満足せしめられるように考察・施策する。

ここには、鳥類を天敵として利用することについて考察し、いわゆるヘビクイドリ *Gypogeranus serripentarius* については、その性状などについて、特に種々解明するところがある。

#### 75. チャドクガ幼虫の防除試験並びにドクガの生活史について

(東海近畿農試茶) 南川仁博

チャドクガ幼虫について dipping で21種、葉面散布で7種の薬剤について防除試験をした。Dipping において1000倍で100%の効果のあつたものはパラチオン、ダイアジノン、スミサイド、クロールチオン、EPN、アルドリノ、ディルドリン、ロテノール+ピレトリン+ブトキサイドの各乳剤、またDN、BHCの各乳剤は95%、除虫薬乳剤は85%、TEPPは70%、DDT乳剤は50%の殺虫効果を示した。葉面散布ではパラチオン、ダイアジノン、EPN、マラソンの各乳剤が1000倍で100%の効果があつた。ドクガは静岡県金谷町附近の茶園では発見できないが標高600m以上では茶樹を害する。これは1年1回の発生で、幼虫で越冬し、5月上中旬に結繭、6月中下旬に羽化、直ちに産卵、卵期10~15日、幼虫は11~13回の脱皮を行つた。

#### 76. ナシヒメシクイ防除に対する農薬散布上の新知見